

授業科目名		対象学科・専攻	年次	期別
保育内容の指導法（人間関係） Teaching Methods of Contents of Child Care and Education (Human Relations)		児童教育学科 幼児教育学専攻	2年次	前期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	教員免許状取得 必修/選択必修	担当教員	担当形態
演習	1	必修	木村 一恵	単独

科目	施行規則に定める科目区分又は事項等
領域及び保育内容の指導法に関する科目	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

〇コアカリキュラム：保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

全体目標：幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。

（１）各領域のねらい及び内容

一般目標：幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する。

到達目標：１）幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。

２）当該領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している

３）幼稚園教育における評価の考え方を理解している。

４）領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。

（２）保育内容の指導方法と保育の構想

一般目標：幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。

到達目標：１）幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。

２）各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。

３）指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。

４）模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。

５）各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

【全体目標及び概要】

人間関係が人としてこの社会を生きていく上で避けて通る事のできないことであることを理解し、乳幼児からの発達にどのような環境や人とのかかわりが求められるのかを探るとともに、育ちを支える保育・教育の在り方を学ぶ。

【一般目標及び到達目標】

目標対応

（１）「生きる力」の原点としての人間関係には、乳幼児期からのかかわりが重要であることを理解している。

１）今の子ども、親との関係、家族についての現状について説明できる。

(1)-1

(2)-1

２）「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の中での人間関係の領域について説明できる。

(1)-1

（２）集団生活の中での発達の過程を見通した指導について理解する。

１）幼稚園教育以前の年齢の子どもの姿と他の子どもたちへのかかわりを学び、乳児期からのかかわりの重要性を理解する。

(2)-1

２）幼稚園における集団づくりの考え方の基本や指導上の留意点、配慮事項について説明できる。

(1)-2)、3)

(2)-2)、3)

３）乳幼児期に適切な集団遊びについて具体的に説明できる。

(2)-4)、5)

（３）人間関係は子ども同士の関係だけでなく、大人との関係、大人同士の関係が大きく影響することを理解する。

１）子どもの発達にとってどのような環境や人のかかわりが重要なのか具体的に説明できる。

(1)-1)、4)

(2)-1)

回数	保育内容の指導法（人間関係） 授業内容 【木村一恵】	到達目標の番号	コアカリキュラム対応
1	「生きる力」の原点としての人間関係を理解する	(3) 1)	(1)-1)、4) (2)-1)
2	乳児期からの子どもと現代の親のおかれている状況を理解する。	(1) 1)	(1)-1) (2)-1)
3	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における人間関係領域のねらいを学ぶ。	(1) 2)	(1)-1)
4	0歳児の集団生活の中での姿を実践記録を通して学ぶ。	(2) 1)	(2)-1)
5	1, 2歳児の集団生活の中での姿を実践記録を通して学び、人間関係の基礎が乳幼児期にあることを理解する。	(2) 1) 3)	(2)-1)、4)、5)
6	保育場面の映像を活用し3歳児の幼稚園生活の中での姿を知り、集団づくりの考え方を学ぶ。 「人間関係」の領域でのICTの活用法を学び、保育構想に活用する方法を考える。	(2) 2)	(1)-2)、3) (2)-2)、3)
7	3歳児の集団づくりを考える上で、どのような活動が適切かを理解し、個と集団に応じた援助についてロールプレイを行なう。	(2) 2) 3)	(1)-2)、3) (2)-2)、3)、4)、5)
8	保育場面の映像を活用して4歳児の幼稚園生活の中での姿を知り、具体的な集団づくりの過程について学ぶ。	(2) 2)	(1)-2)、3) (2)-2)、3)
9	4歳児の集団づくりを発展させていく遊びの展開を考えて指導計画を立案し、教師の援助について具体的に考える。	(2) 2) 3)	(1)-2)、3) (2)-2)、3)、4)、5)
10	保育場面の映像を活用して5歳児の幼稚園生活の中での姿を知り、4歳児との違いを理解する。子ども同士のトラブル場面の事例をもとに、子ども同士が解決していく過程をどう援助するかを話し合う。	(2) 2)	(1)-2)、3) (2)-2)、3)
11	保育場面の映像を活用して5歳児の集団づくり、リーダーについて子どもたちの姿を理解する	(2) 2) 3)	(1)-2)、3) (2)-2)、3)、4)、5)
12	幼稚園生活の中で人とのかかわりの難しい子どもへの支援の仕方について学ぶ。	(2) 1) 2) (3) 1)	(1)-1)、2)、3)、4) (2)-1)、2)、3)
13	保護者と保育者の望ましい関係はどういうものか事例を通し、理解する。	(3) 1)	(1)-1)、4) (2)-1)
14	保育者間の子どもの見方、保育観が子どもの人間関係を育むためには重要なことを理解する。	(3) 1)	(1)-1)、4) (2)-1)
15	情報機器を活用し、さまざまな社会状況や家庭環境の中で過ごす子どもたちの実態を知り、子どもたちがすこやかに人とのかかわりもって育つために必要なことを理解する。	(1) 1) (2) 1) 2) (3) 1)	(1)-1)、2)、3)、4) (2)-1)、2)、3)
定期試験	実施する		
成績評価方法	授業への取り組み（関心・意欲・態度）30%、レポート（思考力・判断力・表現力）20%、定期試験（知識・理解）50%		
テキストおよび参考文献	『保育内容の指導法（人間関係）』山口短期大学 幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省）、保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）		
メッセージ	人として生きていく上で欠かすことのできない人とのかかわりが乳幼児期からどのように育っていくのかを具体的に学ぶ中で、保育・教育にたずさわる者としてどのように子ども、親とのコミュニケーションをとっていくか演習を交えながらすすめていきます。		

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 今の子ども、親との関係、家族についての現状について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本は説明できる。	間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解） 課題レポート（思考力・判断力・表現力）	5% 20%
(1)-2) 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の中での人間関係の領域について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本は説明できる。	間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	15%
(2)-1) 幼稚園教育以前の年齢の子どもの姿と他の子どもたちへのかかわりを学び、乳児期からのかかわりの重要性を理解する。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本は説明できる。	間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	10%
(2)-2) 幼稚園における集団づくりの考え方の基本や指導上の留意点、配慮事項について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本は説明できる。	間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	10%
(2)-3) 乳幼児期に適切な集団遊びについて具体的に説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本は説明できる。	間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	20%
(3)-1) 子どもの発達にとってどのような環境や人のかかわりが重要なのか具体的に説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本は説明できる。	間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解） 授業への取り組み（関心・意欲・態度）	10% 10%